

「火の用心だより」

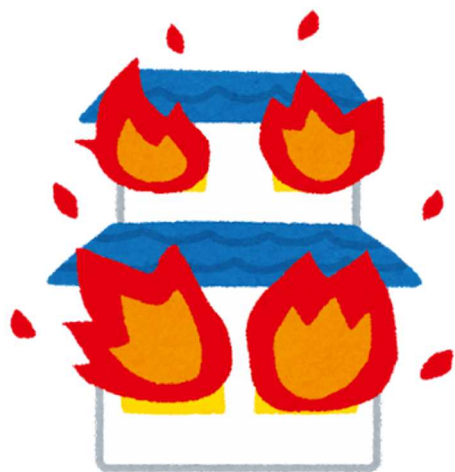
第80号(令和3年11月)

発行：札幌市消防局予防部予防課

11月9日は「119番の日」です！ -----

毎年11月9日は「119番の日」です。消防車や救急車は「住所」や「正確な場所」がわかった時点で出動するので、住所などを「落ち着いて」「正しく」伝えることが、消防車や救急車を早く到着させるためのポイントになります。

また、住所や場所が上手く伝えられない場合でも、GPS機能付きのスマートフォンや携帯電話では、その機能によって通報場所を特定できることがあるので、機器の設定を確認してみましょう。



119番通報の ポイント

- 災害現場では二次災害が発生する恐れがあるので、必ず自身の安全を優先し行動しましょう。

火災で初期消火できなかった場合は、すぐに建物の外へ避難し、安全な場所から通報しましょう。

- 慌てて早口にならないよう、落ち着いて、正確な情報を伝えましょう。

- 住所がわからない場合は目立つ建物や目標物など、周りに見えるものを伝えましょう。

思わぬ火災を防ぐために～火災事例とポイント～

これからの時期は空気が乾燥するため、火災が発生すると火の回りが早く、短時間で被害が拡大する傾向にあります。

毎日気を付けていても、思わぬ原因で火災に至るケースもありますので、ここでは火災事例とポイントを紹介します。

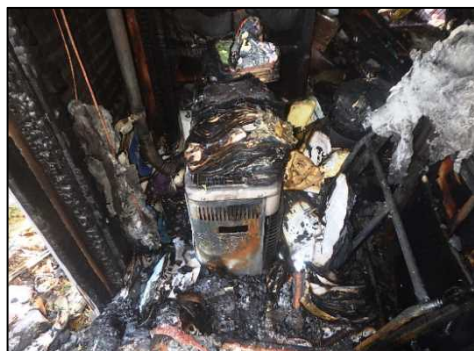
【事例①】まさか猫が・・・

飼っている猫がFF式灯油ストーブの天板上に上がり、天板上にある運転スイッチを踏み込んだことにより、ストーブが点火され、付近にあった衣類が輻射熱により発火し火災となったもの。



【事例②】意図せずスイッチが・・・

空き家の片付けをしている際、付近に置いていた雑誌などが崩れ、運転スイッチに当たったことで、ストーブが点火され、燃焼筒に接触していた雑誌などが発火し火災となったもの。



【事例①・②の火災の予防ポイント】

- ストーブの誤作動や不意な点火を防ぐため、使用していない時は電源コードや電池を抜く。
- ストーブの周りには、衣類や雑誌などの燃える物を置かない。

【事例③】いつも使っていたものが・・・

換気扇を作動させた際、モーターが層間短絡し、周りのホコリに着火したことで、火災となったもの。
(※層間短絡とはコイル部分がショートすること。)



【事例③の火災の予防ポイント】

- 仕様書や取扱説明書の用法を守り、連続使用する場合は日常的に異常がないか確認する。
- 異変を感じた場合はただちに使用を止め、専門の業者に連絡する。

市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO



さっぽろ市
02-N0621-022
R3-2-479